

元気な四国を目指して

四国支部副支部長
須賀 幸一
(愛媛県)



(社)日本技術士会四国支部が設立され、誠に喜ばしく存じます。四国支部設立に際しましては、中四国支部の時代からの多くの諸先輩方のご尽力により、達成できたことは申すまでもありません。特に中国支部におかれましては、組織分離による会員数の減少など、支部活動の大きなマイナスにもかかわらず積極的にご支援いただきました。また四国におきましても、香川県を中心とした技術士試験会場の設置や日本技術士会会員の増強など、四国支部分離独立に向けた活動が実を結んだ結果であります。

さて、四国支部の設立創刊号ですので、四国支部設立の母体となった「四県技術士会」の発足について、個人的な思い出などを少しご紹介いたします。日本技術士会中四国支部で「四国支部の分離独立」の機運が高まっていたのと時期を同じくして、四国内でも各県の技術士会の連携を模索しようとする動きが始まっておりました。平成14年当時、徳島県技術士会の事務局長をしていた能田正徳氏と、愛媛県技術士会の事務局長であった私(須賀)が大学時代の同窓であったことから、技術士のCPDや行事計画、日本技術士会との関係など、県技術士会が抱えていた課題について意見交換を行いました。また交流のあった高知県技術士会の右城猛代表や明坂宣行事務局長とも意見交換を行い、四県の技術士会が情報交換して行く必要があるという点で一致しました。その後、右城氏と神田睦氏(徳島県会長:当時)が話をされ、神田氏から篠原俊憲氏(愛媛県会長:当時)に熱い内容の手紙が届くといったように、この動きが広がっていきました。最終的に篠原氏が鎌田氏(香川県会長:当時)に連絡を取るということで、「四県技術士会」の発足に向けてのお膳立てが揃ったわけです。平成14年9月30日に香川県(四電技術コンサルタント)で準備会が開かれ、四国四県で行われるCPDやセミナー等について情報交換を行い、四国内の技術士同士の交流を深め、更には将来、四国四県の技術士会が一つの組織として活動出来るような基盤づくりについて議論することになりました。その後の活動は、みなさんご存じのとおりです。奇しくも四国における独立と連携の動きが、日本技術士会と各県技術士会の双方から起こったことが、今回の四国支部設立の大きな原動力であったと信じております。

不透明な時代にあっては「地域の活性化」が重要であるといわれています。四国支部の設立により、われわれ四国の技術士が、各地域で多様な活動を行い、その活動を連携することにより、「四国を元気」にすることができれば望外の喜びであります。最後に、支部会報誌の創刊号の発行にあたり、ご尽力頂きました関係者のみなさまに感謝申し上げますとともに、この会報誌が四国在住の技術士にとって有益な情報交換の「場」となることを祈願いたしまして、ご挨拶いたします。